

## 使用説明書

使用前には必ず本説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。



### 動物用医薬品 “京都微研” キャトルウィン-6

牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢-粘膜病2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス感染症・牛アデノウイルス感染症混合ワクチン

#### 製法及び性状

本剤は、弱毒牛伝染性鼻気管炎ウイルス、弱毒牛パラインフルエンザ3型ウイルス、弱毒牛RSウイルス及び弱毒牛アデノウイルス（7型）をそれぞれ培養細胞で増殖させ、そのウイルス液を混合し、凍結乾燥した生ワクチンと、牛ウイルス性下痢1型及び2型ウイルスをそれぞれ培養細胞で増殖させ、紫外線で不活化し、混合した液状不活化ワクチンとを組み合わせたものである。

乾燥生ワクチンは淡褐色白色の乾燥物で、液状不活化ワクチンは赤褐色半透明で均質な液体である。乾燥生ワクチンに液状不活化ワクチンを加えて振盪すると容易に溶解し、赤褐色半透明の均質な液体となる。

#### 成分及び分量

○乾燥生ワクチン 1バイアル（10頭分）中			
豚精巣細胞培養弱毒牛伝染性鼻気管炎ウイルス No.758-43株	10 <sup>5.0</sup>	TCID <sub>50</sub> 以上	
鶏胚細胞培養弱毒牛パラインフルエンザ3型ウイルス BN-CE株	10 <sup>6.0</sup>	TCID <sub>50</sub> 以上	
ハムスター肺由来（HAL）細胞培養弱毒牛RSウイルス rs-52株	10 <sup>6.0</sup>	TCID <sub>50</sub> 以上	
やぎ精巣細胞培養弱毒牛アデノウイルス（7型） TS-GT株	10 <sup>4.0</sup>	TCID <sub>50</sub> 以上	
ラクトース-水和物	60.0	mg	
ポリビニルピロリドン K-90	3.0	mg	
L-アルギニン塩酸塩	10.0	mg	
D-グルシトール	30.0	mg	
○液状不活化ワクチン 1バイアル（20mL）中			
牛精巣細胞培養牛ウイルス性下痢ウイルス1型 Nose/T株（不活化前ウイルス量）	10 <sup>9.5</sup>	TCID <sub>50</sub> 以上	
牛精巣細胞培養牛ウイルス性下痢ウイルス2型 KZ-cp/T株（不活化前ウイルス量）	10 <sup>9.5</sup>	TCID <sub>50</sub> 以上	

#### 効能又は効果

牛伝染性鼻気管炎、牛ウイルス性下痢-粘膜病、牛パラインフルエンザ、牛RSウイルス感染症及び牛アデノウイルス（7型）感染症の予防

#### 用法及び用量

乾燥生ワクチンに液状不活化ワクチンを加えて溶解し、その2mLを牛の筋肉内に注射する。また、追加免疫用として使用する場合には、半年から1年毎に2mLを筋肉内に注射する。

#### 使用上の注意

##### 【一般的注意】

- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤は効能・効果において定められた目的のみ使用すること。

##### 【使用者に対する注意】

誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば本使用説明書を持参し、受傷について医師の診察を受けること。

#### 本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
牛伝染性鼻気管炎ウイルス	否	生	無	
牛パラインフルエンザ3型ウイルス	否	生		
牛RSウイルス	否	生		
牛アデノウイルス（7型）	否	生		
牛ウイルス性下痢ウイルス1型	否	死		
牛ウイルス性下痢ウイルス2型	否	死		

本ワクチン株は、人に対する病原性はない。

牛ウイルス性下痢ウイルス1型及び2型は、不活化されており感染性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは下記までお願いします。

株式会社 微生物化学研究所 営業部  
〒611-0041 京都府宇治市横鳥町24、16番地  
TEL：0774-22-4519  
FAX：0774-22-4568

#### 【牛に対する注意】

##### 1 制限事項

- 本剤の注射前には健康状態について検査し、重大な異常（重篤な疾病）を認めた場合は注射しないこと。
- 牛が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射の適否の判断を慎重に行うこと。
  - 発熱、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
  - 疾病の治療を継続中のもの又は治療後間がないもの。
  - 交配後間がないもの、分娩間際のもの又は分娩直後のもの。
  - 明らかな栄養障害があるもの。
  - 発情中又はその他のワクチン注射や移動後間がないもの。
- 本剤の注射後、激しい運動は避けること。

- (4) 本剤の注射後、少なくとも2日間は安静に努めること。
- 2 副反応
- (1) 過敏な体質の牛及び本剤を複数回(2回以上)注射した牛では、注射後短時間でアレルギー反応等の異常な反応を呈することがあるので、注射後は注意深く観察すること。
- (2) 副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- (3) 本剤を注射後、発熱が認められることがある。
- 3 相互作用  
本剤には他の薬剤(ワクチン)を加えて使用しないこと。
- 4 適用上の注意
- (1) 移行抗体価の高い個体では、ワクチン効果が抑制されることがあるので、幼若な牛への注射は移行抗体が消失する時期を考慮すること。判断が困難な場合は、必要に応じて追加の注射を行うこと。
- (2) 牛ウイルス性下痢-粘膜炎に対して、5か月齢以下の牛では、期待する効果が望めないことがある。
- (3) 投与経路(筋肉内注射)を厳守すること。特に、鼻腔内接種は避けること。
- (4) 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと(ガス滅菌によるものを除く)。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- (5) 注射器具(注射針)は1頭ごとに切り替えること。
- (6) 注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- (7) ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に取扱うこと。
- (8) 滅菌済みの注射器具等で液状不活化ワクチンを乾燥生ワクチン瓶内に注入し、よく振盪して均一に溶解すること。
- (9) ゴム栓を取り外しての使用は、雑菌が混入するおそれがあるので避けること。

#### 【取扱い上の注意】

- (1) 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- (2) 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- (3) 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- (4) 使用時よく振り混ぜて均一とすること。
- (5) 溶解後は速やかに使用すること。
- (6) 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
- (7) 乾燥生ワクチン瓶内は、真空になっており破裂をするおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
- (8) 使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、消毒又は滅菌後に地方公共団体条例等に従い処分、若しくは感染性廃棄物として処分すること。
- (9) 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

#### 【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 直射日光、加温又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。

#### 貯法及び有効期間

- 1 遮光して、2～10℃に保存すること。
- 2 有効期間は3年間(最終有効年月は外箱及びラベルに表示)

#### 包装

1セット	5頭分	乾燥生ワクチン	5頭分×1バイアル
		液状不活化ワクチン	10mL×1バイアル
10頭分	10頭分	乾燥生ワクチン	10頭分×1バイアル
		液状不活化ワクチン	20mL×1バイアル
10頭分	10頭分	乾燥生ワクチン	1頭分×10バイアル
		液状不活化ワクチン	2mL×10バイアル

製造販売元



微生物化学研究所  
京都府宇治市槇島町24、16番地

26090500B  
B6V②